

武雄市の文化財

今回は、武雄市内にある指定文化財のうち、古墳について紹介します。現在、武雄市内にある古墳のうち、「潮見古墳」、「矢ノ浦古墳」、「玉島古墳」、「多蛇古墳」が県指定史跡になっています。

潮見古墳は、橋町の潮見神社の裏、潮見山の山腹にある直径20mの円墳です。6世紀半ばに造られたものと考えられています。潮見古墳からは馬具や武具、装身具など豊富な副葬品が出土しており、なかでもカスガイは県内では他に出土例がなく、貴重なものです。冠や武具などの権力を



玉島古墳



潮見古墳

象徴する副葬品が多く出土していることから、被葬者はこの地域を統括する集団の長であつたと考えられます。矢ノ浦古墳は、白岩運動公園トリムコース内にある前方後円墳です。5世紀前半に築造されたものと考えられています。全長37m、後円部直径17m、前方部の幅15m、長さ20m、高さ2.7mを測ります。後円部中央に遺体を納める施設が2基確認されています。玉島古墳は、県道武雄・鹿島線を南に向かい、嬉野市塩田町に入る手前にある古墳です。昭和45年の調査で、平均直径



矢ノ浦古墳

45m、高さ9m、頂上に堅穴系横口式石室をもつ県内最大規模の円墳であることがわかりました。石室からは武具や装身具などの副葬品が出土しており、杵島山周辺の有力な首長の墓であつたと考えられます。多蛇古墳は、朝日町の甘久郵便局の東側にある前方後円墳です。発見当初は、開発により古墳の姿が想像しがたいほどでしたが、平成8年度に全長約40m、前方部の幅12m、後円部の径26mに修理復元されました。この古墳が造られた時期は、明確ではありません。



多蛇古墳

んが、至近距離にあつた円墳の調査結果や出土遺物に須恵器が発見されていないため、遅くとも5世紀中頃と推定されます。

人の動き



総人口 52,326人
男 24,779人
女 27,547人
世帯数 16,801世帯

武雄町 16,016人(+1)
橋町 2,844人(-38)
朝日町 5,677人(-82)
若木町 2,004人(-105)
武内町 2,733人(-74)

東川登町 2,685人(-42)
西川登町 2,218人(-41)
山内町 9,595人(-97)
北方町 8,554人(-80)
()は平成18年1月30日との増減



平成19年1月30日現在